

大津企業景況調査報告書

(第92回)

令和3年1月～3月期実績

令和3年4月～6月期見通し

大津商工会議所

大津企業景況調査について
(令和3年1月～3月期)

1. 調査方法

大津商工会議所会員企業 100 社に F A X 方式による調査

2. 調査企業

産 業 別	調査対象企業数	有効回答企業数	回 収 率
製 造 業	1 2 社	9 社	7 5 . 0 %
卸 売 業	1 3 社	1 1 社	8 4 . 6 %
小 売 業	2 5 社	2 3 社	9 2 . 0 %
サービス業	3 1 社	2 3 社	7 4 . 2 %
建 設 業	1 9 社	1 5 社	7 8 . 9 %
合 計	1 0 0 社	8 1 社	8 1 . 0 %

3. 調査期間

調査対象期間は令和3年1月～3月とし、調査時点は令和3年3月1日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指数として DI 指数を採用した。DI 指数とは Diffusion Index (景気動向指数)の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた数値である。

「業況」、「売上高」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は、前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金借り入れの難易度」の DI 指数は、3 ヶ月前との比較である。

「採算(経常利益)の水準」、「取引の問い合わせ」の DI 指数は、過去比較でなく、水準を聞いたものである。

景況感は全体では3期連続改善の中、業種では「K字型」に

令和3年1月～3月期の大津企業景況調査の結果がまとまった。調査結果を示す指数としてDI指数（景気動向指数）を採用している。DI指数は実数値などの上昇率を示すものでなく、強気、弱気などの経営者マインドの相対的な広がりの意味する。

全体

景況感は、今四半期の全体の業況判断DI（前年同期比）が前四半期の▲34から▲28へと6ポイント持ち直し、3四半期連続で改善したものの、プラスまでの道りはまだまだ遠い。業種別では、製造業が▲70から▲22へ大幅改善し、建設業も▲29から▲20へと改善した。一方で、卸売業は▲27から▲36へ、サービス業が▲36から▲39へ、小売業が▲20から▲22へと悪化した。コロナ禍からの立ち直りが進み生産活動が持ち直してきた製造業、建設業とコロナによる移動の自粛による需要減少の影響を受けやすい飲食・旅館などのサービス業や、採算の悪化で苦しんでいる卸売業や小売業とで明暗が分かれ「K字型」になっている。

先行きの業況判断DIは、全体では▲28から▲12へとマイナス幅は縮小するが業種により状況は異なり、製造業では▲22から+22へ、サービス業も▲39から▲9へ、小売業も▲22から▲4へと改善を見込んでいる。一方、建設業では▲20から▲29へ、卸売業でも▲36から▲46へとさらに悪化を見込んでおり、先行き2極化の様相が強まっているとみられる。

□ 業況判断DI（前年同期比）は、全体では改善も、卸売業、サービス業、小売業では悪化

「前年同期比でみた業況判断DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、前四半期の▲34から今四半期は▲28へ改善した。業種別では製造業が+48ポイント改善し▲22へ、建設業も+9ポイント改善し▲20となったが、卸売業、サービス業、小売業で9～2ポイント悪化した。

□ 売上DI（前年同期比）は、全体では改善するも、サービス業では悪化

「前年同期比でみた売上DI(全体)」(「増加」－「減少」)は、前四半期の▲46から▲36へと改善した。業種別では、製造業が▲80から▲56へ、建設業が▲50から▲20へと大幅改善し、卸売業や小売業も改善が進んだ。一方で、サービス業は▲40から▲47へと悪化した。

□ 採算DI（前年同期比）は、全体として悪化するも、製造業では改善

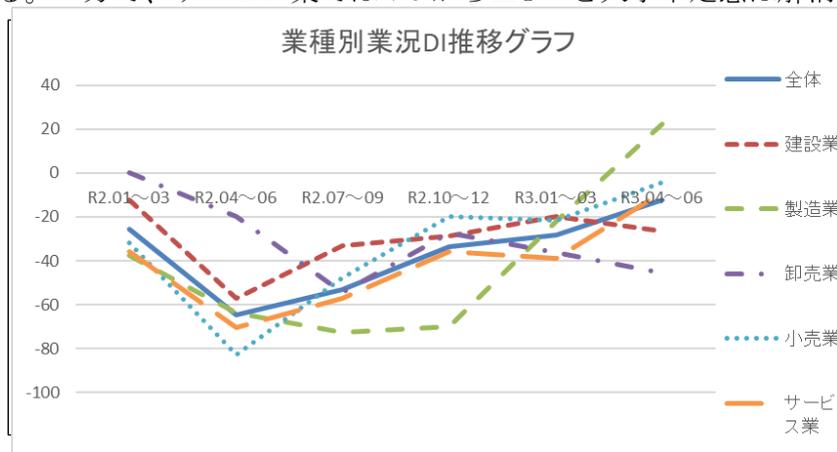
「前年同期比でみた採算(経常利益)DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、前四半期の▲33から今四半期は▲41へと再び悪化した。製造業では▲70から▲44へと改善したが、小売業での▲15から▲39への悪化を筆頭に、卸売業、サービス業、建設業で24～4ポイント悪化した。全体として売上面では改善しても採算面では厳しい状況が続いているとみられる。

□ 資金繰りDI（3ヵ月前比）は、全体として悪化し、特に小売業で顕著

「3ヵ月前比でみた資金繰りDI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、前四半期の▲5から▲24へと大幅に悪化した。全ての業種で悪化し、特に前期に一旦改善した小売業は+20から▲9へと再びマイナスに転じた。全体として売上は回復基調にある中、運転資金の確保が困難になってきていることや、コロナ対策融資により調達した資金が時間経過とともに不足気味となり、助成金の恩恵を受けにくい業種などで資金繰りに窮している状況が想定される。

□ 従業員DI（前年同期比）は、全体で人手不足が継続するも、業種によりまだら模様

「前年同期比でみた従業員DI(全体)」(「不足」－「過剰」)は、前四半期の+14から今四半期は+16へと、業況の改善に伴って全体では人手不足感が高まったとみられる。特に売上が大幅に改善した製造業は▲20から+11へ、建設業でも+29から+40へと人手不足感が高まっている。一方で、サービス業では+8から▲4へと人手不足感は解消している。

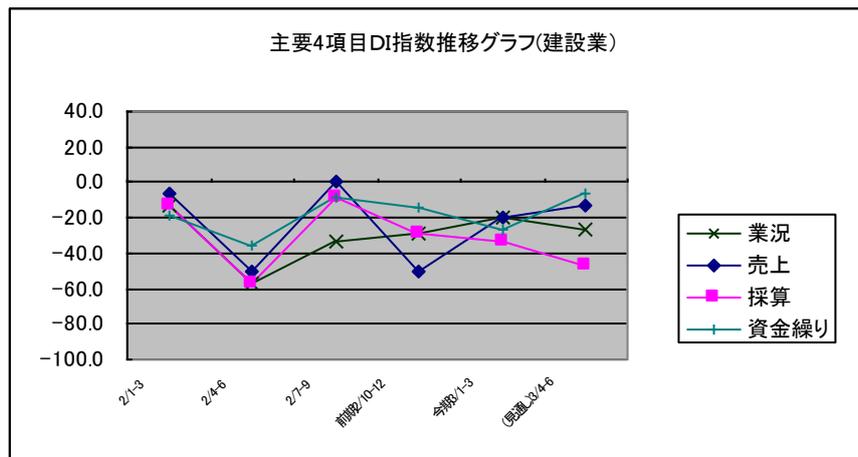


建設業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲29 から今四半期は▲20 へとマイナス幅が縮小した。個別指標をみると、「売上」は前四半期に▲50 と大幅に悪化したのが今四半期は▲20 へと改善した。一方で、「採算」については▲29 から▲33 へと悪化しており、「資金繰り」も▲14 から▲27 へと悪化している。

建設業は、新型コロナウイルス感染拡大による建設現場での作業停滞や資材の調達難などから業況が悪化していたが、その後、一部での経済活動の再開もあって、「売上」については改善の兆しがみえるものの、「採算」の改善にはなかなか結びつかず、運転資金の確保が困難になってきている状況がうかがえる。

「従業員」は前四半期の+29 から今四半期は+40 となり、売上の回復に伴って人手不足感が高まってきているとみられる。

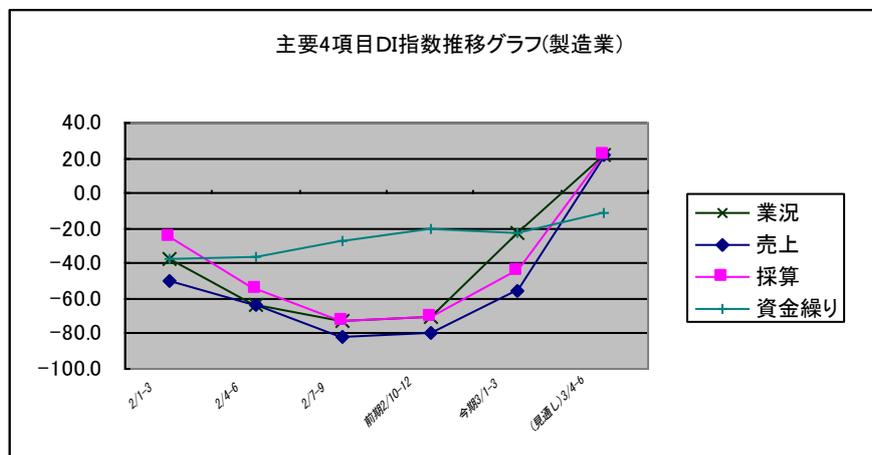


製造業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲70 から今四半期は▲22 へと大幅に改善した。個別指標をみると「売上」は▲80 から▲56 へ、「採算」についても▲70 から▲44 へ、「採算の水準」も▲50 から▲11 へ改善している。一方で「資金繰り」については▲20 から▲22 へと足踏み状態となっており、売上回復に伴う運転資金の確保が課題となっているとみられる。

製造業は新型コロナの影響を受け、一時期はリーマンショック時の落ち込みに迫る悪化状態となっていたが、国内外での生産活動の回復に伴い、地方でも今四半期から改善に向けた動きが加速しているように思われる。

「従業員」については、仕事量の増加の影響で前四半期の▲20 から今四半期は 31 ポイント上昇+11 となって人員過剰状態を脱し、逆に人手不足感が高まっている。



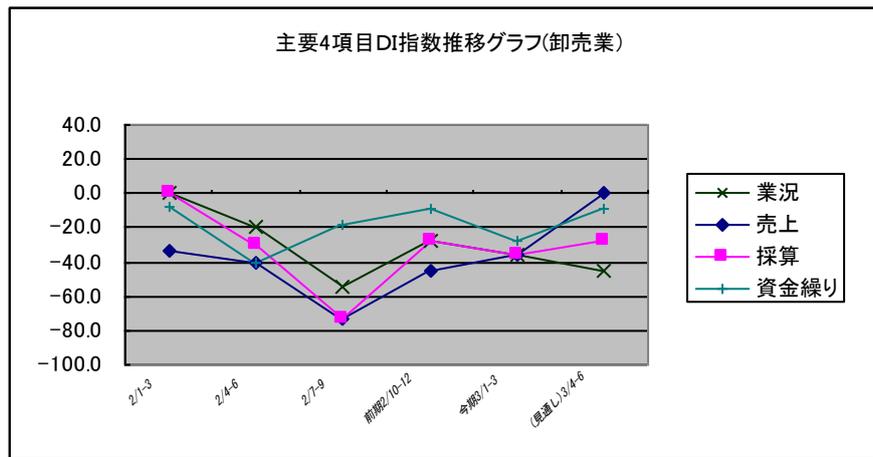
卸売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期▲27 から今四半期は▲36 へと再び悪化した。一方で、個別指標をみると、「売上」は前四半期の▲46 から今四半期は▲36 へと改善している。「採算」については前四半期の▲27 から▲36 へ、また、「採算の水準」についても+9 から±0 へと悪化しており、これらのネガティブな状況が業況判断に影響していると思われる。

建設業や製造業など他業種での「売上」の改善による需要拡大が、卸売業の「売上」の改善につながっているとみられるが、採算の改善には結びついておらず、「資金繰り」についても、▲9 から▲27 へと悪化しており、資金繰りに苦慮している状況がうかがえる。

一部の業種で支援の対象となっている時短協力金も卸売業では対象から外れていることもあり、厳しい状況を訴える現場からの声も聞こえてくる。

「従業員」は前四半期の+9 から今四半期は▲9 へと再びマイナスに転じ、売上の回復とは裏腹に人手過剰感が出てきていると思われる。

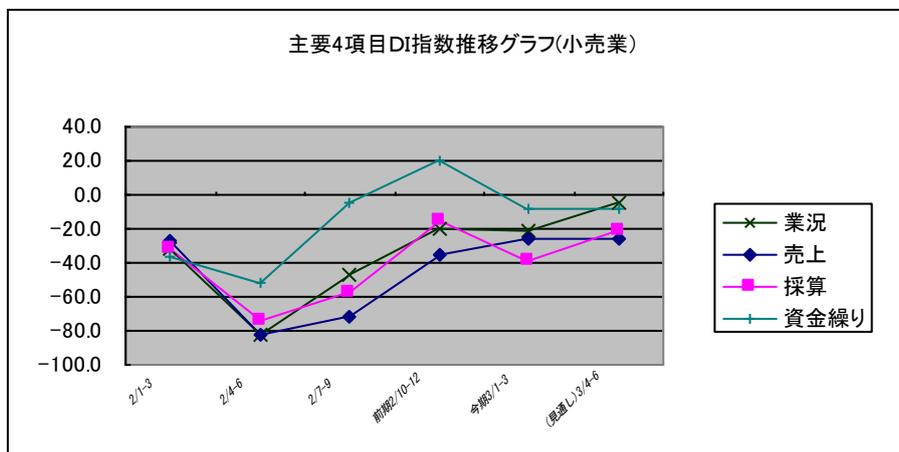


小売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲20 から今四半期は▲22 へと足踏み状態となっている。個別指標をみると、「売上」は▲35 から▲26 へと改善したものの、「採算」については▲15 から▲39 へ、「採算の水準」についても▲10 から▲17 へと悪化している。

巣ごもり需要の裾野の拡がりや、コロナ禍の中、知恵を絞ったあらたな営業活動で売上の回復を図っているケースも見受けられる。一方で、「採算」や「採算の水準」の改善にはつながっていない状況となっており、「資金繰り」は前四半期の+20 から今四半期は▲9 へと悪化している。建設業や卸売業と同様に、売上が回復する一方で、採算の伸び悩みから資金繰りに苦慮している様子が垣間見える。

「従業員」は前四半期の+25 から今四半期は+22 へとなり、卸売業と同様に、売上の回復とは裏腹に人手不足感は弱まってきているとみられる。

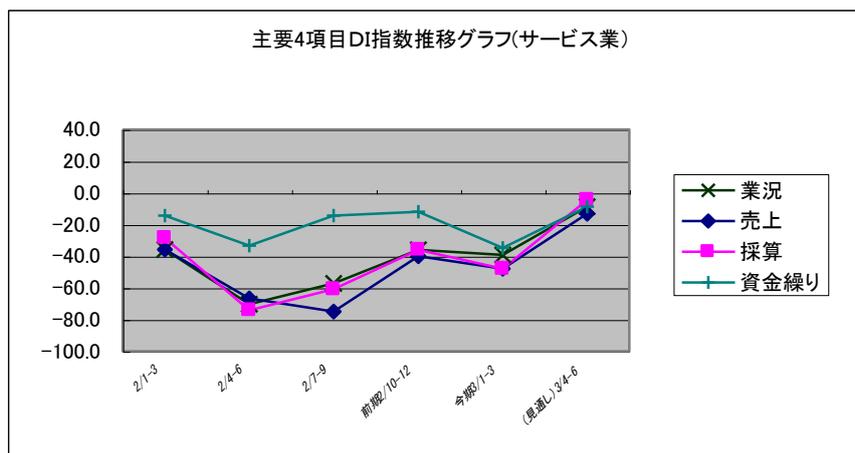


サービス業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲36 から今四半期は▲39 へと再び悪化している。個別指標をみると、「売上」は▲40 から▲48 へ、「採算」も▲36 から▲48 へと悪化しており、再び厳しい状況となっているとみられる。

前四半期に Go To キャンペーンなどを契機として、一旦改善の兆しが見えたものの、その後の新型コロナウイルス感染拡大でキャンペーンが停止となり、出鼻がくじかれた状態で業況は再び悪化しているとみられる。県内での移動の制限や活動の自粛の影響により、観光宿泊業や飲食業、運輸業など、様々な業態のサービス業で厳しい状況となっている。

「従業員」は前四半期の+12 から今四半期は+4 となり、人手不足感は緩和してきている。



来四半期(3ヵ月後)の「業況」DIは、今四半期の▲28 から▲12 へとさらに改善が進むとみている。個別指標をみると、「売上」は▲36 から▲11 へ、「採算」についても▲41 から▲17 へ改善するとみている。「従業員」については、全体として+15 から+17 へと人手不足感はやや高まるとみているが、滋賀県全体の有効求人倍率は令和2年4月以降、連続1.0を下回っており、引き続き動向に注意する必要がある。

業種別の「業況」DIでは、製造業は今四半期の▲22 から来四半期は大幅に改善して+22 へとプラスに転じるとみており、サービス業も▲39 から▲9 へ、小売業も▲22 から▲4 へとマイナス幅が縮小するとみている。一方で、建設業は▲20 から▲27 へと悪化し、卸売業でも▲36 から▲46 へと落込みが激しくなるとみている。

新型コロナウイルス感染がある程度抑制されてきているものの、変異型の感染拡大による第4波が懸念され、一部の業種では改善の兆しもうかがえるが、個別企業からは、先行き見通しが立たず今後の事業運営に不安の声が出ている。

3ヵ月後の設備投資については、「計画がある」と回答した割合は25%で、3ヵ月前の30%より5ポイント減少しており、設備投資に対する意欲がさらに低下している結果となった。業種別では、卸売業が36%、製造業が33%、建設業が27%、サービス業が22%、小売業が18%となっており、業況の厳しい業種での投資に対する慎重な姿勢がうかがえる。

投資内容の割合は、「設備更新」が37%で最も多く、新型コロナによる業況の先行き不透明であるものの、老朽化設備の入れ替えは必要と判断されていると思われる。「合理化・省力化」については、全体で3ヵ月前の15%から30%へ、「生産力増強」は全体で15%が19%となり、これらの前向きな設備投資への意欲が若干戻ってきている兆しも見受けられる。

一方で、投資方針は、「計画通り」が45%で、「景気により見直す」が45%となっており、景気の先行きへの見通しについて肯定的な見方と警戒感を持った見方が拮抗している状況がうかがえる。

田中マネジメント事務所
MBA・中小企業診断士 田中清行

(今の経済情勢に対する意見) 以下は、今の経済情勢に対する意見である。

- ・不況が続くと予想しますが、社員一同心は折れていませんので、生き抜きたいと思っています。(製造業)
- ・業況にかかわらず、将来への不安は増すばかり、子供たちの未来のためにも、明るい社会になってほしいです。(製造業)
- ・昨年に引き続きコロナの影響により経営は非常に苦しい。特に今年滋賀県を除く周りの府県の緊急事態宣言により過去最悪の状況となっている。特に飲食店、旅館等に商品を納品している当社の様な業種は、他の県のように協力金もでないのにお客様の動きはほとんどないに等しい。なにか支援策はないのかと思う。(卸売業)
- ・とにかくコロナ禍の終息を願うのみです。(小売業)
- ・前提は元には戻らない。災害は繰り返される。その上で、目の前のリアルの価値を見直していく。自分達の強みと時代のニーズをマッチさせる。正しい答えなどないから楽しく必死で考える時と思っています。(小売業)
- ・需要の停滞は変わらずあるが、やはり多肉植物の特異種の導入がインスタグラム、チラシ効果あり新規顧客が増加、ハウス売店売りが倍増している。しかし、今までの営業販売に手が回らず減少がみ。一時顧客の定期営業販売のねり直しを！売店の伸びをどう続け増やすかが今後の改革になる。(小売業)
- ・飲食業に補助はありますが、それに関連している事業(材料・農業・送迎するタクシー・バス電車等)には何ら補助がなく、経営していく上でどうにもなりません。会社を止めようか考えている状態です。(サービス業)
- ・コロナ禍による需要の停滞に対しての経済対策の偏りには問題が多く、今後の日本経済、特に地方経済には大変になると思います。単独で生き残ることは厳しく、3年後には全く景色が変わってくると思います。DXは地方からこそ先に進めていただいて、大規模なインフラ整備をしていただきたい。市役所や地方の官庁が、いまだ書類やペーパーであふれているのはどうかと思う。地方こそ先行していないと、国が分断しておかしな時代になっていきそうです。(サービス業)
- ・2021年はコロナ感染症・東京オリンピック・衆議院選挙の大問題がいずれも、沈静化・開催・与野党議席いずれも見通しが立たず対応ができない。(サービス業)
- ・「巣ごもり」関連需要を捉えた企業は好調が続いている。ネット通販の利用が増えて宅配需要が拡大している。自動車関連が復調傾向にあり、素材・部品が好調である。売上減少に伴い、在庫の絞り込みによる運送・保管料の削減によって、利益を出す方向になっている。(サービス業)
- ・やはりコロナのために仕事の受注量が少なくなっている。春先から夏も心配だ。(建設業)
- ・コロナ禍で何が起こるか不安。(建設業)

以上

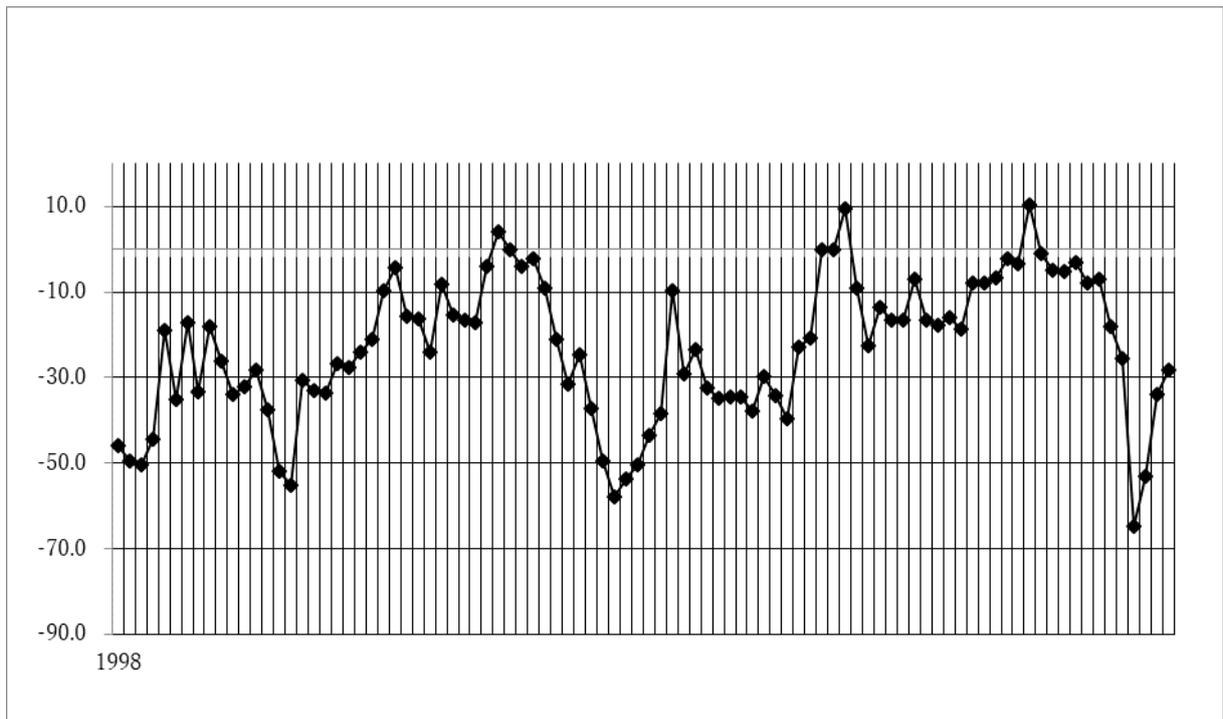
DI 指数一覧表

	業 況		売 上 高		採 算 (経常利益)	
	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見 通 し	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見 通 し	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見 通 し
全 体	▲28.4	▲12.3	▲35.8	▲11.1	▲40.7	▲17.3
建 設 業	▲20.0	▲26.7	▲20.0	▲13.3	▲33.3	▲46.7
製 造 業	▲22.2	22.2	▲55.6	22.2	▲44.4	22.2
卸 売 業	▲36.4	▲45.5	▲36.4	0.0	▲36.4	▲27.3
小 売 業	▲21.7	▲4.3	▲26.1	▲26.1	▲39.1	▲21.7
サービス業	▲39.1	▲8.7	▲47.8	▲13.0	▲47.8	▲4.3
	前年同期との比較		前年同期との比較		前年同期との比較	

	採算 (経常利益) の水準		取引の問い合わせ		従 業 員	
	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見 通 し	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見 通 し	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見 通 し
全 体	▲4.9	▲4.9	▲34.6	▲37.0	14.8	17.3
建 設 業	13.3	0.0	▲6.7	▲46.7	40.0	40.0
製 造 業	▲11.1	0.0	▲55.6	▲33.3	11.1	11.1
卸 売 業	0.0	9.1	▲36.4	▲27.3	▲9.1	▲9.1
小 売 業	▲17.4	▲13.0	▲26.1	▲21.7	21.7	26.1
サービス業	▲4.3	▲8.7	▲52.2	▲52.2	4.3	8.7
	今期水準と来期見通し		今期水準と来期見通し		前年同期との比較	

	資金繰り		長期資金借入難易度		短期資金借入難易度	
	1-3月期 動向	4-6月期 見通し	1-3月期 動向	4-6月期 見通し	1-3月期 動向	4-6月期 見通し
全体	▲23.5	▲8.6	▲6.2	▲6.2	▲1.2	▲2.5
建設業	▲26.7	▲6.7	6.7	6.7	13.3	13.3
製造業	▲22.2	▲11.1	0.0	0.0	11.1	11.1
卸売業	▲27.3	▲9.1	▲18.2	▲9.1	▲9.1	▲9.1
小売業	▲8.7	▲8.7	▲4.3	▲8.7	▲8.7	▲8.7
サービス業	▲34.8	▲8.7	▲13.0	▲13.0	▲4.3	▲8.7
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	

本調査開始（1998年 第二四半期）以降 業況DI指数推移グラフ（全体）



※縦目盛り軸は、全業種の業況DI指数を表しています。横目盛り軸は、調査年を西暦で表しています。

大津商工会議所

〒520-0806

滋賀県大津市打出浜 2 番 1 号

コラボしが 21 9 階

TEL : 0 7 7 - 5 1 1 - 1 5 0 0

FAX : 0 7 7 - 5 2 6 - 0 7 9 5

URL <http://www.otsucci.or.jp/>